

1 はじめに

みなさん、おはようございます。

私は、水俣病不知火患者会の会長の大石利生です。

本日は、みなさんにここ日本の地方都市水俣で引き起こされた水俣病についてお話ししたいと思います。

2 水俣病の歴史

まず最初に、水俣病の歴史についてです。

1960代の高度経済成長時代、水俣市にあるチッソという化学会社の工場が排水を海に垂れ流したことで引き起こされました。

排水に含まれる水銀が魚介類に蓄積され、それを食べた人々がメチル水銀中毒に犯されました。チッソが排水を垂れ流した不知火海を取り巻く地域は、漁業の盛んな地域でした。たくさんの人々が汚染された魚介類を知らずに食べ続けたのです。

世界最大の公害の一つです。

国や熊本県も被害を拡大した責任を負うことが裁判で確認されています。

現在まで1万人以上の水俣病患者が確認されておりますが、まだまだ知られていない多くの患者がいるとされています。

3 水俣病の症状・被害

2番目に、水俣病という病気の特徴についてです。

みなさんは、水俣病の患者の症状について御存知でしょうか。

私の姿を見て、水俣病の患者に見えますか。

私も、水俣病の患者です。水俣病の劇症型の患者は、手足が曲がり、しゃべることもできず、歩くこともできない方の姿を御存知の方もいるでしょう。

しかし、劇症型ではない水俣病の患者がたくさんいるのです。水俣病の患者には、様々な症状が現れます。特徴的なのが、四肢末梢の感覚障害です。私自身も、足の裏から足の甲にかけてガラス片が貫通しているのに全く痛みを感じず血だらけになっているのにしばらく気付かないことがありました。

孫をお風呂に入れているときに、お湯が熱すぎて孫が泣き出したことがありました。私自身がお湯が熱すぎることを感じる事ができなかったからです。

水俣病の症状には、他に、頭痛、耳鳴り、手足のしびれ、カラス曲がり、味覚障害などなどがあります。

私自身も、1996年に自分が水俣病だと診断を受けるまでは、自分が水俣病だとは思っていませんでした。診断をした医師に食ってかかって文句を言いもしました。私自身も、水俣病とは、私自身が若いころ見たことのある劇症型の患者のことだと思っていたからです。

4 水俣病の現状

第3に、水俣病の現状についてです。驚くべきことに、水俣病が発生して半世紀以上も経過した現在において、水俣病の被害の全容は解明されていません。多数の水俣病の患者は、いまだに放置されたままです。

その理由の一つ目は、加害者であるチッソ、国、熊本県が水俣病の実態解明のための調査を怠ってきたからです。チッソ、国、熊本県は、不知火海沿岸に居住していた一人一人の健康調査をおこなうべきです。そのため、水俣病の患者がたくさん取り残されています。

理由の二つ目は、自分が水俣病と気付かずにいる方々が多いことです。

理由の三つ目は、差別と偏見を怖れて名乗り出ることができずにいることです。

水俣病の患者が多数取り残されているということは、多くの患者がいまだに正当な補償を受けられずに放置されていることを意味します。

水俣病不知火患者会は、このような患者のための支援を行っています。

水俣病の長い歴史を振り返ってみれば、患者自ら立ち上がり裁判を起こすことで補償を勝ち取ってきました。裁判という方法でしか正当な補償を受けることができないからです。

それは、チッソ、国、熊本県が恒久的で十分な補償に取り組んでこなかったからです。

5 最後に

最後です。今こそ、関係全住民の健康調査・環境調査を実施し、最高裁判決に従い恒久的な補償制度を確立するなど、水俣病問題の全面解決を図ることが求められています。

私たちは、半世紀の闘いの中で解決できなかった水俣病問題から、しっかり被害者としての教訓を引きだして、福島原発事故の被害者に水俣病被害者と同じ思いをさせてはならないと強く決意しています。

水俣病という悲劇が二度と繰り返されないためにも、水俣病の現状を知っていただきたいと思います。

以上